

# 平成27年度 赤穂市学校(園)評価報告書

学校園名 赤穂市立赤穂西小学校

## 1 本年度の学校(園)経営方針

「『確かな学力』と『豊かな心』をもつ児童の育成～自信をもち、自ら考え、たくましく生きる児童をめざして～」の学校目標のもと、人権尊重の精神を基盤に据え、いじめのない学級、学校をつくる。また、児童のよさや成長を認め、ほめて伸ばすことにより、自尊感情を育み、「今日も来てよかった、明日も来たい赤穂西小学校」を全ての児童が実感できる経営を行う。

## 2 本年度の学校(園)重点目標

校訓「かしこく・やさしく・たくましく」の具現化

**かしこく** 主体生を育む教育  
 ○子どもが主体の授業改善(授業のユニバーサルデザイン化) ○確かな基礎・基本の定着  
 ○キャリア教育の推進 ○ICTを活用した授業改善

**やさしく** かかわりを大切にする教育  
 ○人権教育の推進 ○いじめ・不登校問題への積極的な対応 ○心の教育の充実  
 ○開発的生徒指導の推進 ○特別支援教育の推進

**たくましく** 鍛え継続することを大切にする教育  
 ○体育・保健学習の改善・充実 ○日常的な運動や遊びの奨励による体づくり  
 ○健康・安全面の充実 ○家庭と一体となった生活習慣の改善と確立

## 総合的な学校園関係者評価

本校は、コミュニティ・スクール実施校として、学校・保護者・地域の三者が一体になって児童の成長を支援する活動に取り組んでいる。活動の達成状況について、学校運営協議会委員による評価を実施した。

比較的评价の低い項目として、次のような内容が挙げられる。

- ・学校は、校舎内外の施設設備の整備に努め、安全で整った環境をつくっている。
- ・学校は、モラルやルールを大切にされた指導の徹底を図っている。
- ・三歩一声運動(児童の登下校時に可能な範囲で外へ出て、見守りや声かけをしていく運動)が地域に広まっている。
- ・子どもたちは、場に応じたあいさつができています。
- ・子どもたちは、相手の気持ちを考えた態度や言葉づかいができています。
- ・子どもたちは、様々な行事や体験活動に意欲的に取り組んでいる。

評価は比較的高いが、コミュニティ・スクールや三歩一声運動そのものの認知度がまだ十分といえる状態ではなく地域へのさらなる啓発が求められる。

以上のことから、来年度は次の内容に重点を置いて取組を進めていきたい。「三歩一声運動の普及・通学時の安全確保」「環境整備」「挨拶・マナー・モラルの指導」「親への啓発」

## 学校園関係者評価

◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

## 3 自己評価結果 (A～D) A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

観点(重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組)	評価資料	達成状況	改善の方策
各学年に応じた基礎基本の徹底を図り、児童自らが課題をもち、見通しをもって学習を進め、達成感が味わえる学習を展開することで「分かる授業」「楽しい授業」の実現を図る。	項目 子ども・地域の実態を踏まえた特色ある教育課程が実施できているか。	研究授業 たのうらタイム	A	学習指導要領に基づき、実態に即したカリキュラムの見直しと授業時数の確保に努める。 内部講師による校内研修会を定期的にもち、全教職員が特別支援教育の視点で、どの児童にも「できる」「分かる」授業作りをするための力量の向上を図る。 基礎基本の定着を図るため家庭にも協力を依頼し、自主学習等でより確かな学力形成を目指す。 総合的な学習の内容をさらに精選するとともに、キャリア教育に根ざした地域人材の発掘、安定した協力体制を確立する。 道徳・各教科等と関連づけた特別活動のカリキュラムを見直し、児童の主体的な活動を推進できるよう時間を確保する。 授業者は児童一人一人の活動や思考する表情に着目し、分かる喜びのある授業研究を実施する。
	指標 教科書を主たる教材としつつ、実態に応じた補助教材で指導している。			
	項目 問題解決・学び方を通し、自ら学び自ら考える力を育成しているか。	児童の様子		
	指標 発表・ノートへの教師の助言が適切で、子どもが学習意欲を持っている。			
	項目 地域の教育資源活用とたのうら学習発表会で地域発信ができていますか。	アンケート たのうら学習発表会		
	指標 発信した学習成果に対して地域から肯定的フィードバックがある。			
授業の中で達成感・有用感を感じさせ、自尊感情を育むとともに、すべての児童が人間尊重の精神を育み、互いの個性を認め合う人権教育を推進する。	項目 望ましい集団生活を通して社会的自立を促しているか。	授業記録簿 児童の様子	B	兵庫版道徳副読本及び文科省「私たちの道徳」を活用するとともに、道徳の授業研究を実施し、道徳の時間の一層の充実を図る。  全職員で人権の観点の共通理解を図り、全ての学級が同歩調で学級経営と授業づくりに取り組めるようにする。
	指標 特別活動の時間を確保し、年間計画にそって実施している。			
	項目 児童みんなが分かる喜びを味わい、自己実現に向かっていくか。	児童の様子 自分見つけアンケート		
	指標 授業の中で一人一人が分かる喜びを味わえる授業を行っている。			
授業の中で達成感・有用感を感じさせ、自尊感情を育むとともに、すべての児童が人間尊重の精神を育み、互いの個性を認め合う人権教育を推進する。	項目 各教科等と連携を図った道徳カリキュラムの見直しと実施が進んでいるか。	道徳教育全体計画 道徳年間指導計画	B	兵庫版道徳副読本及び文科省「私たちの道徳」を活用するとともに、道徳の授業研究を実施し、道徳の時間の一層の充実を図る。  全職員で人権の観点の共通理解を図り、全ての学級が同歩調で学級経営と授業づくりに取り組めるようにする。
	指標 兵庫版道徳副読本を活用し、実態に即したカリキュラム編成ができ、実施できている。			
	項目 自他の人権を尊重し共に生きる心を培う人権教育を推進しているか。	児童の様子 自分見つけアンケート		
	指標 子どもは善悪の判断ができ、自分や友達を大切にしている。			
授業の中で達成感・有用感を感じさせ、自尊感情を育むとともに、すべての児童が人間尊重の精神を育み、互いの個性を認め合う人権教育を推進する。	項目 協働性をもとに教育の専門家としての実践的指導力が高まっているか。	教職員の様子 学校自己評価	B	兵庫版道徳副読本及び文科省「私たちの道徳」を活用するとともに、道徳の授業研究を実施し、道徳の時間の一層の充実を図る。  全職員で人権の観点の共通理解を図り、全ての学級が同歩調で学級経営と授業づくりに取り組めるようにする。
	指標 問題を一人で抱え込まず、全職員で取り組んでいる。			
授業の中で達成感・有用感を感じさせ、自尊感情を育むとともに、すべての児童が人間尊重の精神を育み、互いの個性を認め合う人権教育を推進する。	項目 教師自身の人権意識が高まっているか。	教職員の様子 学校自己評価	B	兵庫版道徳副読本及び文科省「私たちの道徳」を活用するとともに、道徳の授業研究を実施し、道徳の時間の一層の充実を図る。  全職員で人権の観点の共通理解を図り、全ての学級が同歩調で学級経営と授業づくりに取り組めるようにする。
	指標 教室の中にある疎外やいじめなどの差別事象を見逃さずに対処している。			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	小規模校ならではのきめ細やかな指導や一人一人の個性の伸長を今後とも大切に継続してほしい。また、よい意味での競争心も養いつつ全員が主役になれるチャンスを作ってほしい。 地域には学校に協力したいという意識を持ってくださっている人材がまだまだいると思われる。地域人材のさらなる活用を図り、地域と一体となって教育実践を深めてほしい。  子どもたちに視野を広くもたせ、市の陸上大会等にも積極的に参加し、向上心をもたせてほしい。  兵庫型教科担任制が導入された趣旨を理解した上での効果的な取組を期待している。幼小中のスムーズな移行をめざし、さらなる連携連絡に努めてほしい。幼小の連携が行事だけの交流にとどまることなく、保育や授業についても交流を進めてもらいたい。
◎	○	モラルやルールを大切にされた心の教育を充実させてほしい。また、相手の気持ちを考えた態度や言葉づかいなど道徳教育を充実させてほしい。  道徳教育と「いじめ」の問題は深く関連している。学校内における「いじめ」の存在を、職員がどこまで把握しているのかを懸念している。本校に「いじめ」はないと言い切れるだけの児童把握を行ってほしい。  道徳の時間をはじめ、各教科・特別活動・総合的な学習の時間などの教育活動全体を通して、児童の人権意識の高揚を図ることができるよう、教職員間で共通理解を図ってほしい。

観 点	評 価 項 目 (学校園・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策	
	評 価 指 標 (児童・生徒・園児の状態・行動)					
特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会機能を充実させ、個別の指導計画をもとにした組織的・計画的な支援に努め一人一人への支援の充実を図る。	項目	児童理解を基盤に指導力の向上に向けて研修が進んでいるか。	課題児童の様子 学校自己評価	A	講師招聘による校内研修会をもち、全教職員の特別支援教育にかかる力量の向上を図る。  月に1度の定例の校内委員会を更に充実させ、児童の実態についての共通理解を深めていく。  日常的に児童の実態を話題にし、より深い児童理解と職員の協働体制を強化する。	
	指標	課題を持つ子どもについて絶えず話し合い、実践を進めている。				
	項目	校内相談体制を整備し、内面理解に基づく生徒指導を充実しているか。				会議録 個別の指導計画
	指標	情報交換を定例化し、全職員の共通理解のもと指導に当たっている。				
教師としての使命と職責を自覚し主体的な研修と実践に努め、専門職としての力量を高めることにより、児童・保護者・地域の願いを受け止め、地域に信頼される学校づくりをめざす。	項目	命と人権を守る防災教育や不審者対策が充実しているか。	訓練実施後のアンケート	A	教職員の協働性が高く、絶えず協力しながら切磋琢磨する風土がある。ベテラン・中堅層が日常的に若手をサポートするとともに、若手自身ものびのびと実践を進めながら力量を高めつつある。この状態を継続できるよう、全職員の意識を高めていく。 職員が異動しても継続できるよう研修体制の組織化を継続し、本年度の反省をふまえた研修計画を立案する。 「早寝・早起き・朝ごはん」の実践の定着化をさらに進めて、保護者への啓発を意識した活動を実施することにより、毎日の生活への深化・充実を図る。 地域の指導者による子どものフラワーサークル活動をさらに充実させていく。 PTA会員の減少に伴い、PTA活動の効率的かつ主体的な運営を、時間設定の配慮等で一層支援する。	
	指標	危機管理マニュアルや全体計画に基づいて確実に指導できている。				
	項目	学校環境が子どもにとって安全・安心なものになっているか。				安全点検表
	指標	施設・設備・校地の安全点検と営繕が滞りなく実施されている。				
「コミュニティ・スクール」の推進により保護者によるボランティア、地域ボランティア等を組織し、学校を支える体制を確立する。	項目	学校評価(自己・保護者・関係者)や地域アンケートが適切に実施され改善に向け進んでいるか。	学校関係者評価	A		
	指標	結果が公表され、改善点が明確になっている。				
	項目	保護者連携による「早寝・早起き・朝ごはん」の実践化が進んでいるか。				生活表 生活実態アンケート
	指標	子どもの生活実態を「生活表」等で担任が把握している。				
「コミュニティ・スクール」の推進により保護者によるボランティア、地域ボランティア等を組織し、学校を支える体制を確立する。	項目	心安らぐ美しい教育環境となるよう整備がなされているか。	校内環境 校内安全点検表	A		
	指標	清掃活動が無言ででき、花が美しく飾られている。				
	項目	PTA本部役員を中心に会員相互の理解が進んでいるか。				PTA活動状況 PTA広報紙
	指標	常任委員会、部会、会報等を通して会員同士が情報を共有できている。				
「コミュニティ・スクール」の推進により保護者によるボランティア、地域ボランティア等を組織し、学校を支える体制を確立する。	項目	オープンスクール、学校通信、学級通信、ホームページ等で情報を発信しているか。	生活表 アンケート	A	学校運営協議会での協議内容をもとにして、課題とその背景を分析し、対応策について検討していく。家庭・地域・学校が一体となり、実践を進めていく。  保護者・地域住民により多く学校に来ていただくために、オープンスクールの実施日及び実施曜日を分散する。また、案内方法を工夫し、小学生のいない家庭にも案内が届くようにする。	
	指標	保護者や地域の方から発信に対するフィードバックがある。				
	項目	学校運営協議会が定期的実施され、成果が全体化されているか。				学校運営協議会
	指標	記録が資料化され、教育活動に反映されている。				
「コミュニティ・スクール」の推進により保護者によるボランティア、地域ボランティア等を組織し、学校を支える体制を確立する。	項目	西部地区まちづくり連絡協議会、スポーツクラブ21西部等と連携ができているか。	子どもの様子 日記	A		
	指標	外部連携が子どもの育ちに正の効果をもたらしている。				
	項目	ゲストティーチャー、学校行事等で地域人材の活用が効果を上げているか。				子どもの作文 学校関係者評価
	指標	子どもたちに地域への誇りや愛着、キャリア形成の素地が育っている。				

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	課題をもつ児童の把握に努めるとともに、その児童の課題に応じた指導方法の研究を進めてもらいたい。そのために、関係機関との連携、職員の研修機会の確保に努める必要がある。  各学年の個別の指導計画が作成されている点は評価できる。各学期毎の見直しだけでなく、次年度への引継ぎを大切にしたい。
◎	○	危機管理マニュアルをもとにした職員研修、防災(地震・津波等)・不審者対策実地訓練を年間計画に位置づけ、確実に実施する必要がある。  地域連携、家庭連携を一層推進するため、学校評価の結果を公表し、自治会等との日常的なコミュニケーションを活性化させたり、地域住民や高齢者との交流機会を増したりする。そのために、教職員・PTA会員の地域行事等への積極的参加を願いたい。
◎	◎	場に応じたあいさつや相手の気持ちを考えた態度や言葉づかい、物事の善悪等を、保護者に対して遠慮することなく、毅然とした態度で指導し、教師としての自信と誇りを持って児童や保護者と向き合ってほしい。 学校行事をより広く知ってもらい、参加者を増やす方法を工夫してほしい。 保護者や地域とのコミュニケーションをより活性化させるため、児童のあいさつ運動をさらに進めてほしい。 保護者や地域住民が気軽に来校しやすい雰囲気づくりについてアイデアを出し合い進めてほしい。 登下校の安全について、「三歩一声運動」が広がるよう「継続は力なりを合い言葉に地道な取組を進めてほしい。

### 自己評価における特記事項

○1年間に3回、各学期ごとに教職員による学校評価を実施し、その総合的な判断として「達成状況」に表した。  
○教職員の自己評価結果をふまえつつ、学校改善へ向けて取り組んでいる。  
○年度末学校評価より  
生徒指導の問題行動への対処が適切であり、学校全体で問題に対応する体制がうまく機能しているということが分かる。また、校内研究に関しては、特別支援教育の視点を取り入れて日常的な授業改善に取り組んでいるところである。道徳の授業の深化・充実、発展的学習への取組、教育環境の教材教具の整備拡充等はまだまだ不十分であるが、学習支援ボランティア等の活用等、地域の協力による教育効果が高まっている。さらに、補充学習の時間の確保、研究授業のあり方について、具現化していくための提言があった。これをふまえ、来年度への引継ぎを行いたい。

### 項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

「保護者アンケート」「学校関係者アンケート」ともに高い回収率であり、いずれも高い評価点をいただいている。こうした学校に対する関心や期待の大きさを心に刻み、来年度も引き続きあいさつ運動や、いじめを許さない人間関係づくり、思いやりの心を育てる道徳教育をさらに充実させ、生きて働く真の優しさを育てていきたい。  
授業に役立つツールとして、コンピュータ室のコンピュータが刷新され、大型ディスプレイが3台導入された。実物投影機とプロジェクターの日常的な使用とともに、授業に活用していきたい。